

林地台帳の整備等今後の森林整備の推進に向けた協議の場（第3回）議事概要

1. 日時 平成29年1月27日 13時30分～14時30分

2. 場所 農林水産省4階第2特別会議室

3. 議題 林地台帳の運用に向けた取組について

4. 出席者 宮崎県知事 河野 俊嗣
長野県飯田市長 牧野 光朗
岩手県岩手町長 民部田 幾夫

林野庁 農林水産副大臣 礒崎 陽輔
林野庁次長 沖 修司
森林整備部長 織田 央
計画課長 小坂 善太郎

5. 議事概要

事務局から林地台帳の運用に向けた今後の取組について説明した後、意見交換を行った。運用マニュアルを都道府県に配布し、平成31年4月の本格運用に向けて、林地台帳の整備・運用を促進していくことについて了承された。主な意見は以下のとおり。

（河野宮崎県知事）

- 地方の声を聞き、整備マニュアル・運用マニュアルを作成いただいたことに感謝申し上げる。
- 市町村はマンパワーが不足しており、今後も国による人的・財政的支援が必要。平成29年度の地財措置を充実いただいたところであるが、国の直接補助についても検討をお願いしたい。
- 説明会の開催や相談窓口の設置など、国による技術支援を検討いただきたい。
- 都道府県・市町村が役割をしっかりと果たし、台帳の整備・運用を進めていくことが重要である。
- 今後、山村地域の活性化をテーマに、県、市町村、関係団体で構成する連携会議を県内7地域に設置する予定だが、その中でも台帳の整備を取り上げるなど、市町村が台帳の整備・運用を優先順位の高い施策として進めていけるよう、市町村とともに取り組んでいきたい。

（牧野飯田市長）

- 国が、都道府県・市町村の代表と協議の場を設け検討を行い、マニュアルを作成した今回の取組は画期的であり、国と地方の関係の優良な先行事例になる。感謝申し上げる。
- 地域の状況は様々。実際に台帳を運用しながらマニュアルをブラッシュアップして欲しい。
- 国が地方に対してイニシアチブを取って台帳整備の進行管理を行って欲しい。
- 全国的に不公平感なく台帳が整備・運用されることが重要であり、そうしたことへの配慮もいただき、制度の本格的運用に向けて取組を進めていただきたい。
- 地方においても林地台帳整備に対する意識が共有されるよう、丁寧な説明をお願いしたい。

（民部田岩手町長）

- 林地台帳の作成は、国土保全・地方経済活性化の礎になると期待している。感謝申し上げる。
- 都道府県、市町村によって取組に温度差があり習熟度が異なるため、画一的ではなく柔軟に対応いただくなど、市町村担当職員へ丁寧な説明をお願いしたい。
- 人的、財政的支援の更なる充実をお願いしたい。
- 市町村における取組の温度差によって認識や解釈が異なるといったことが生じないように、判断基準等について出来るだけ具体的に表現することが重要である。

（林野庁）

- 運用において生じた新たな疑問に対応するなど、マニュアルをブラッシュアップしていきたい。
- 定期的な取組状況の把握や都道府県担当者との意見交換等により、全国的に公平に台帳の整備・運用が図られるよう取り組んでいきたい。
- 国有林の出先機関との対話の場等も活用し、ご意見をいただきたい。

（礒崎副大臣）

- 林地台帳に関する国民全体の認知度を上げるため、国がしっかりと広報していく必要がある。
- 運用マニュアルについて包括的な賛同を得たが、細かい部分は更新して改良していきたい。
- 森林環境税の創設に向けて議論を進めていく中で、市町村主体の森林整備を進める際の管理ツールの1つに林地台帳を位置づけていくことも考えていきたい。